



埋文だより

第59号

平成24年10月24日発行



石剣の出土状況



4方向から見た石剣

西日本最古の石剣出土

天神段遺跡(大崎町)では、縄文時代前期(約5,000年前)の表面がよく磨かれた石剣1点が見つかりました。

長さ35cm、幅2.9cm、重さ約300gです。

大隅半島でよく見られる頁岩という石で作られ、全面が磨かれた完全な形で出土しました。狩猟等に使用された跡はなく、儀式に利用されたと考えられています。形状は、東日本の縄文時代前期の石剣と似ており、何らかの形で東日本との交流の可能性も考えられます。

今後、この石剣と一緒に出土した遺物を調べれば、当時の人々の生活を知る手掛かりになると考えられています。

目次

- ・西日本最古の石剣出土 1
- ・注目の発掘現場 平成24年度センター業務報告他..... 2, 3
- ・きて・みて・さわって～考古学の世界～ 4
- ・岩手だより～東日本大震災復興調査支援～ ... 5
- ・県立埋蔵文化財センター設立20周年フォーラム他 ... 6

注目の発掘現場 平成24年度センター業務報告

当センターでは、本年度、20遺跡の発掘調査を行っています。発見した遺構や多彩な出土品は、県内はもちろん全国的にも注目を集めています。これらの中から6遺跡について、その成果を紹介します。

① 県道の横に古道 ～下原遺跡(志布志市)～



高規格道路建設に伴い、県道63号線東側を発掘調査しています。杉並木の下に古い街道跡とみられる大きな溝があり、その発掘調査を行ったところ、地表から約2.5mのところ幅約3.2mの道路跡が検出されました。道路跡を埋めた土の中からは、大正3(1914)年の桜島大噴火のもと考えられる火山灰が約10cmの厚さで堆積していました。「鹿児島県史」には、志布志と岩川を結ぶ馬車道の県道が、明治20年代に新設された記録もあります。



遺跡位置図

② 連穴土坑に煙道が2つ? ～田原迫ノ上遺跡(鹿屋市)～

縄文時代早期中頃(約8,500年前)の竪穴住居跡や連穴土坑が数多く発見されています。今回、



両側に煙道のある連穴土坑が発見されました。通常1つの煙道が両端にあるものなので、今後比較検討して調査をすすめます。

③ 延々と続く集落での営み ～永吉天神段遺跡(大崎町)～



遺跡は、標高35～50m程のシラス台地にあり、縄文時代前期～縄文時代晩期の土器・石器、弥生時代の竪穴住居跡、平安時代の掘立柱建物跡などが発見されています。調査地は、現在の档ヶ山にあり、古くから人々が生活を営んでいたことがわかります。

④ 旧石器時代の石器製作所跡を発見 ～堀之内遺跡(薩摩川内市)～

旧石器時代(15,000年前)に槍先の側面に装着していたと考えられている細石刃や、細石刃を作る際にでた黒曜石のかけらが大量に出土しました。昨年度の調査でも黒曜石が集中した遺構が5基見つかり、この遺跡で狩りの道具が作られていたことがわかりました。



黒曜石の特徴から現在の薩摩川内市樋脇町内で採れた石を使っていたことがわかっています。

⑤ 古墳時代の住居で火事があった? ～荒園遺跡(大崎町)～

縄文時代早期(約7,500年前)と古墳時代(約1,500年前)の遺物や遺構が見つかりました。古墳時代では竪穴住居跡が2軒見つかりました。1軒からは炭になった柱や壁が多量に見つかったことから、火事があったものと想像されます。また、7,000年以上も前の鬼界カルデラの爆発に伴う地震による液状化現象の跡も見つかりました。



⑥ 弥生時代の宝箱か? ～高吉B遺跡(志布志市)～

弥生時代中期(約2,000年前)の住居跡のそばから、土器を壁におしつけた土坑が見つかりました。土器を外していくと、奥に掘り込みがありましたが、土器以外は何も見つかりませんでした。大切なものを埋めた後、腐り、空洞になったのでしょうか。また、縄文時代早期中頃の土器が入った連穴土坑も見つかりました。



墓の可能性の高い土坑

火を使った痕跡があるため燻製施設と考えられている連穴土坑のトンネル部分に約8,500年前の深鉢形土器が立ったままの状態出土しました。連穴土坑の使用方法を考える手掛かりになるかもしれません。



土器が立ったまま出土した連穴土坑

重要文化財に新指定 前原遺跡出土品

前原遺跡は、鹿児島市福山町(旧松元町)にあり、旧石器時代から中世にかけての遺跡です。その出土品が、9月6日に国の重要文化財に指定されました。土器や土製品が31点、石器が235点の計266点です。

いずれも、縄文時代早期の集落跡から出土した多量の土器、土製品、石器からなる資料です。土器は薄いつくりで、貝殻による繊細な文様が描かれていたものです。また、上から見た形が円形のほかに四角やレモン形の土器もあり、県外の地域では見ることができない特徴です。多彩な石材でつくられた石鏃や石鱗形の磨石などもあり、縄文時代早期(約9,500年前)の活動の様子をよく伝えています。

これらの出土品は、学術的に非常に価値の高いものであることから、国の重要文化財に指定されました。



代表的な出土遺物

きて・みて・さわって ～考古学の世界～

埋蔵文化財センターや発掘現場では、7月から8月にかけて、児童生徒や教員、市町村教育委員会職員を対象に、多くの体験活動や研修を行ってきました。

フレッシュ研修、埋蔵文化財専門職員養成初級講座

新任の教員や、市町村教育委員会職員を対象にした、考古学の入門講座です。見学や体験活動を通して、埋蔵文化財保護行政や活用の仕方について理解を深めました。



パワーアップ研修 インターンシップ研修

小中学校・高校・特別支援学校で、10年以上の経験をつんだ教員向けの研修と中高生向けの職場体験研修です。文化財を活用した学習指導の討論や実際の職場での研修を充実させました。



埋蔵文化財専門職員養成 中級講座

市町村の埋蔵文化財専門職員のための中級講座です。報告書作成のための、より専門的な研修を実施しました。データ処理や接合・復元作業の中で情報交換も積極的に行いました。



岩手便り～東日本大震災復興調査支援～

2011年3月11日、東日本を襲った巨大津波とそのすさまじい惨状^{さんじょう}については、皆さんも記憶に新しいことと思います。私は現在、岩手県教育委員会で東日本大震災^{ふっこう}の復興に伴う調査支援にあたっています。このような支援は阪神淡路大震災の際に初めて実施され、今回も全国から20名の職員が東北被災3県（岩手10名、宮城9名、福島1名）へ4月から派遣^{はけん}されています。派遣職員は10月にさらに増員され、来年度以降も全国から派遣される予定になっています。

私が派遣された岩手県では復興班が組織され、地元職員とともに調査にあたっています。

主な業務としては、復興道路関係の分布調査や試掘調査^{しくつ ちようさ}、高台移転等に伴う試掘調査や本調査、さらに市町村支援などがあります。

復興道路関係の分布調査では、これまでに約120kmを踏査しました。クマを警戒^{けいかい}しながら三陸の起伏のある山中を調べて回るのは大変ですが、緑豊かなブナの森や時々姿を現すシカやカモシカ、リスの姿が疲れを癒^{いや}してくれます。

試掘調査^{かいめつ}では壊滅した集落で調査を行ったこともあり、全員で黙祷^{もくとう}をしてからガレキが残る家の基礎横部分を掘ったこともありました。

被災されて仮設住宅に暮らす方々と一緒に作業することもあります。皆さん大変な被害にあ



被災地での試掘

いながらも、将来へ向けて力強く歩んでいこうとされています。また派遣された我々を逆に気遣^{きせ}ってくださるなど、東北の方々の忍耐力と人情にふれると、頭の下がる思いがします。

震災復興に伴う調査なので、いろいろと大変な面もあります。岩手県は本州最大の面積をもち四国くらいの広さがあるため、被災地まで行くのに滞在先から100km以上あります。被災地で宿泊先を確保するのも一苦労です。

また、調査に必要な重機や作業員が確保できないこともあります。しかし、岩手県の職員や全国から集まった派遣職員と知り合えたり、東北の豊かな自然・歴史・文化などを知ることができるのは貴重な経験です。



分布調査中

震災から1年半がたちました。少しずつ仮設の店舗等が増えてきているものの、被災地には未だにガレキがうず高く積み^{とうかい}まれ、倒壊^{ていぼう}した堤防、基礎だけの家々など荒涼とした風景が広がり、仮設住宅では今でも4万人の方々が生活しています。復興へ向けてまだまだ多くの課題がありますが、震災前よりも安心して暮らせる日が一日でも早く訪れることを願いながら、日々調査に励んでいます。

（平成24年度派遣職員 平 美典）

県立埋蔵文化財センター設立20周年記念フォーラム

今年で、鹿児島県立埋蔵文化財センターは開所20周年を迎えます。平成4年に旧始良町に設置され、平成14年には現在の霧島市上野原縄文の森に移転しました。今回の記念フォーラムでは、これまでに本センターが実施してきました発掘調査や報告書作成、研修、普及活動などの事業成果を県民の皆さんに紹介し、鹿児島の歴史と文化について考える機会を提供します。

鹿児島の歴史や文化の特徴や遺跡の活用方法などについても会場の皆さんと共に考えてまいります。

皆様方の多数のご参加をお待ちしております。

【日時】平成24年11月17日（土） 13：00～16：30

【場所】霧島市国分シビックセンター 多目的ホール

【参加】どなたでも参加できます。（参加費無料）

【日程】13：00～13：30 開場・受付

13：30～15：50 開会，調査成果の発表

15：50～16：30 対談

主催 鹿児島県立埋蔵文化財センター

共催 霧島市教育委員会



旧始良町の埋蔵文化財センター
（現在の県防災研修センター）



現在の埋蔵文化財センター

地域が育む「かごしまの教育」県民週間 関連行事のご案内

「かごしまの教育」県民週間の行事の一つとして、遺跡の現地公開を行います。

また、上野原縄文の森展示館との共催事業として、11月3日に企画展講演会も行います。

たはらきこのうえ

田原迫ノ上遺跡（鹿屋市串良町）

日時：11月10日（土）

1回目 10：00～12：00

2回目 14：00～16：00

内容：弥生時代の集落跡や縄文時代の調理場の跡など、当時の生活の様子を一般公開します。

発掘調査事務所 0994-62-4661



上野原縄文の森開園10周年

特別企画展講演会

「縄文人の匠

～土器・土偶・耳飾りからのメッセージ～

講師：東京大学 教授 したら ひろみ 設楽博己

内容：縄文時代の匠の技

日時：11月3日（土）

13：30 ～ 15：00

場所：上野原縄文の森

展示館1階多目的ルーム

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会（<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>）または、上野原縄文の森（<http://www.jomon-no-mori.jp/>）からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック

埋文だより 第59号

発行日 平成24年10月24日

編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4318 鹿児島県霧島市

国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820

URL：<http://www.jomon-no-mori.jp>

E-mail：maibun@jomon-no-mori.jp